

ジュニア賞

VR を使う新しい手話の学び方

近藤 圭悟 (高専4年生：三重県)

社会には手話を必要としている人はたくさんいます。しかし手話を使えることができる人はとても少ないです。私はもっと手話が広まってほしいです。少しでも世の中の人々が手話に目を向けてくれたらいいと思いました。そこでゲームを通じて手話に触れられれば今よりもっと世の中の人にも届くのではないかと考えました。

私が考えたゲームはVRを使った手話の学習ゲームです。遊び方は大きく2つに分かれます。まずひとつは手話によるタイピングゲームです。プレイヤーは指定される単語や会話を手話で行い、襲いかかる敵を撃退するというものです。敵をテンポよく倒す爽快感と手話の学習を両立させます。このゲームではVR機器で提供される機能の一つであるハンドトラッキングを活用しています。VR以外の特殊な機器は活用しないことはこのゲームの利点のひとつです。もうひとつはVR内の仮想キャラクターに手話をさせ、それをプレイヤーが読み取るゲームです。これらの機能によって、現実での手話の練習ができます。またVRはキャラクターとの距離が普通のゲームと比べて格段に近いので、手話をひとりでよく見て学習することができます。またこれらのゲームに難易度を設定してヒントの有無や、手話技能検定での出題範囲からの○級の単語を出すなどの設定も可能です。

このゲームにより手話の更なる広まり、学習の支えになると思います。ゲームにすることによって子供にも触れやすいものになり、知るきっかけになるだろう。今よりすこしでも手話について詳しい人が増えればうれしい。